

平成 29 年 第 1 回 定 例 会 総 体 質 問 通 告 事 項

3 月 2 日 午 後	<p>杉原孝一郎議員（尾道未来クラブ） 質問方式：一問一答方式</p>
	<p>1 予算編成が、尾道市の予見される将来像と整合性があるかどうかについて          (1) 箱物事業偏重政策の危険、全国平均をかなり上回る人口減少、定住促進対策事業費、際限のない社会保障費の増加対策、限界に近づいた国の借金、交付税削減の将来見通しなど、尾道市の抱える問題・課題を説明しました。この点について市長の見解をお聞かせください。またこういうデータを分析し、尾道の将来像を描くシステムが市に存在しますか。          人口減少社会から派生する様々なありようは、そこまで考えないと安心安全なまちづくりなどできないと思う。予算編成の基本姿勢に、こうした問題点を具体的にどれだけ反映しているのか、また、私の懸念に対する見解も合わせて答弁を。</p> <p>2 市民にとっての「安全安心なまちづくり」「震災に強いまちづくり」その予算について          (1) 安全・安心なまちづくりの基本中の基本は、市民の生命・財産を守る施策が最優先事業と思うが、この点、市長はいかがお考えか。          (2) 市民の為の災害前安全対策は、具体的にどのような事業があるのか、また、木造住宅密集地域の安全対策のための調査予算を、なぜつけないのか。</p> <p>3 公共施設等総合管理計画と財政健全化の関係について          (1) 公共施設等総合管理計画案には、現有施設を更新するなら年間 20 億円の資金が不足するため、今後 30 年間で、25%の施設を削減するとしている。しかし、維持管理費用や防災対策事業費等が試算されてなく実態を反映していない。財政健全化を目指すならこれらの試算を加えて判断しなければならないと思うが、市長の見解は。</p> <p>4 魅力度 19 位の尾道市、ふるさと納税が低迷。成果を大幅に上げるには要綱の見直しが必要ではないか。その方策について          (1) 尾道市ならば 20～30 億円のふるさと納税達成は十分可能である。学校トイレの洋式化、保育環境の充実、貧困児童対策、AI 機器の充実など、進捗しない事業を一気に消化できる。</p>

積極的に取り組む熱意が市長にあるか。

- 5 「将来を見据えた人口減少対策」「住み続けたいまち」「住んで良かったまち」実現へ当初予算から見るその本気度について
- (1) 地方都市が生き残るには若者の定住が必須条件。その為には大都市以上の「何か」が必要。その「何か」が尾道にあるか。
  - (2) 流出の多い15～29歳の女性を繋ぎ留める特段の政策・予算があるか。
- 6 景観条例が旧市内活性化の一助になっているのか、一度も検証がない。その件について
- (1) 旧市内活性化のために、景観条例が役立っているのか検証されていない。条例制定10年経過を期に、検証すべきではないか。
  - (2) かつて尾道大橋が出来ると尾道水道の景色が死ぬと言った高名な芸術家がありました。それが今、日本遺産。市長はこのことをどう思うか。
  - (3) 景観というのは、首長の意思でどうにでもなることを、今一番実感しているのは市長自身ではないか。